

発行所 社団法人 日本自動車工業会 モーターショー統括部  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目6番1号 大手町ビル

Publisher : Tokyo Motor Show Department, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.  
Otemachi Bldg., 1-6-1 Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0004, JAPAN  
TEL 03-3211-8919 FAX 03-3211-5798 WEBSITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA



3日は会期中最後の休日。午前7時ごろには一番乗りの来場者が立ち始めたゲートもあった。多くの来場者が予想されるとあって開場前の各ブースでは入念なミーティング。曇天にもかかわらず開場とともに家族連れなどが入場、託児所、幼児くるま絵画展、トミカコーナーの並ぶこども広場は早い時間からチビッコパワーが炸裂していた。この日は昼前から時折雨という天候だったが、来場者の足は途切れず、会場は午後7時の終了まで賑わった。



## 二輪車

内外の二輪車が並ぶ北ホールの一隅は連日、多くの来場者で埋め尽くされ、出展各社の担当者も一様に「今回の二輪車人気はすごい」と口をそろえる。なかには来場者用パンフレットが足りなくなり、やむなく“配布制限”するブースも。二輪車を身近に感じられるよう、触れて乗れる展示はこれまでどおりだが、若者を中心に家族連れも多く、展示車にまたがる子供の姿も目立つ。コーナーの賑わいは二輪車人気の盛り上がりを象徴している。



北ホールの二輪車展示ブースは大変な人気。Honda Racingコーナーに置かれたMotoGPレーサー・ロッシがライディングしたマシンには、11月3日には1,400人が“乗車”したという。

### ホンダ スポーツマインドで楽しさ盛り上げ

北1ゲートから通じる北ホールを入った左側にブースを展開するホンダの出展テーマは「Dream Wings」。正面に、2003MotoGPでV・ロッシが駆りクラス優勝を飾った「RC211V」と、鈴鹿8時間耐久レースで7連覇した「VTR1000SPW」などを置いたHonda Racingを前面に出してモータースポーツマインドを強調、来場者をブース内に導いている。

ブース内正面に据えられているのは、試作モデルの「GRIFFON」で、革新的なスタイルと先進技術を併せ持った二輪車の新カテゴリーを予感させるスポーツコミューターのコンセプトモデルだ。水平対向4気筒・750ccエンジンを搭載、前後輪連動ABSや車間警告システムなどを装備し、高い安全性を提案している。

また市販予定車として、ロー&ロングスタイルの「シャドウ<750>」、チャンピオンマシンRC211Vのテクノロジーを受け継いだ「CBR1000RR」、新開発の「CB400スーパーフォア・ハイパーVTECスペックⅢ」や、世界で初めて4ストローク50ccエンジンに燃料噴射装置を採用したスクーター「Dio Z4 FI」などの参考出品モデルが目玉を集めている。



ホンダのメイン展示のうちの1台「GRIFFON」



輸入車の展示も盛況で、6つのブースに8ブランドが出展



ヤマハは東京モーターショーの二輪車展示に新しい芸術性を持ち込んだ(左「Divide」、右「dolsa wind」)

### ヤマハ — 「アートの世界」を演出

展示空間を、水族館を思わせるディスプレイを組み込んだウォールで仕切るヤマハのブース内で注目されているのが、“アートの世界”。ヤマハは、その現在と未来の姿を「The Art of Engineering」とテーマ化して出展、国内初出展の6モデルを中心にアートにたとえて紹介している。外から見ると“水槽”のような空間に置かれているのは、前輪ハブにモーターを組み込んだハイブリッドスクーター「mabrice」など。

また、新しいライフスタイルを提案するとともに「思いもよらない乗り物」をイメージさせる「作品」を集めた展示もユニークだが、ブース中央で存在感を示すのはフラッグシップで輸出仕様の「YZF-R1」。MotoGPマシンの設計思想を採り入れたビューティフル&エキサイティングスポーツとして、来場者の注目を浴びている。

### スズキ — 開放的なブース展示

スズキのブースは、正面左側に「GSX-R1000」をはじめとするレーサーやモトクロスなどを集め、右側に話題のコンパクトコミューター「チョイノリ」シリーズを集めた展示で、全体的に開放的なレイアウトにしている。

新たに追加される参考出品の「チョイノリSS」などは、女性や子供たちの人気を独占、ブーステーマとしている「Power to the Future」を象徴するコンセプトモデル「G-STRIDER」は最も目立つ存在だ。

低いスタイルでリラックスした乗車姿勢で新しい乗り心地を提案するとともに、独自開発の電子制御式CVTを採用し、滑るように疾走する900ccオートマチックモーターサイクルとして理想を追求している。

### カワサキ — 高性能モデルを強調

サーキットやフィールドでお馴染みのライムグリーンのカラーリング・マシンが並ぶカワサキのブース。正面ターンテーブルでは、超ド級クルーザー「VN2000」とカットエンジンが「カワサキのイズム」を主張。また、中央のターンテーブルに乗せられたコンセプトモデル「ZZR-X」は、走りに応じたライディングポジションや機能が選択できるモードチェンジ機構を採用するなど、ハイスピードツアーの理想形を提案したマルチパーパスモデルだ。



エキサイティングな走りをイメージするヤマハ「YZF-R1」



スズキが提案する参考出品モデル「GSX-R750」(左)と「G-STRIDER」



高速クルージングとスポーツ性を備えたカワサキ「ZZR-X」

## 4 記者の目



“オートモービル” ジャーナリスト  
シルビー・レインビル さん (カナダ)

### コンセプトカーを中心に取材

最近「カナダにも日本の車や韓国の車がたくさん入ってくるようになりました」とお国の状況を説明。日本の車に乗っているというレインビルさん「日本の車は小さくてキュート。デザインがいい」と説明も的確。各社のコンセプトカーを中心に取材しているそうで、中でもトヨタの「PM」が印象に残ったとか。そして「会場は取材しやすくてとてもいい」と合格点。



第37回東京モーターショーで、輸入二輪車ブランドはそれぞれの特徴を前面に打ち出してブランドの印象付けを狙っている。

**BMW**は、ブース名を「BMW Motorrad」とし、あらゆるステージでのブランドイメージを打ち出し、「R1200C モントーク」で新しいクルーザーを、「R1100 S」で洗練されたスポーティさをアピールしている。

**ドゥカティ**のブースでは、レーサーとしての実績をベースに市販モデルの展示に力を入れ、世界で200台限定の2003年スーパーバイク世界選手権で通算200勝を達成した記念モデル「999R Fila」に人気が集まる。

**ハーレーダビットソン**は18年ぶりのスポーツスターシリーズフルモデルチェンジによる新型モデルをそろえた。バイクの王者の雰囲気を目の当たりにしようという来場者の目当ては、伝統的な雰囲気を残す「XL1200R」だ。

**KTM**はオフローダーとして高い実績を持つが、ロードレーサーの世界に名を連ねるための世界に1台というコンセプトモデル「990RC8」を出展。

**モトグッツィ**ブースで人気は、アメリカやイタリアの白バイ用モデルの市販モデル「California EVツーリング」で、イタリア車「Magniスポーツ1200S」（マーニ）、「Gruso GG」（グルッター&グート）も展示されている。

**トライアンフ**はベストセラーの「ボンネビル／ボンネビルT100」をベースにした日本初公開の「スラクストン900」をはじめ伝統を継承したモデルに加えて、今年のマン島レースで優勝したマシンのベースモデル「デイトナ600」を展示、往年のトライアンフ・ファンの関心も集めている。



Boxer Cupレース2004年モデルレプリカの「R1100 S」



KTMがロードレースへの参戦を狙う「990RC8」



ブランドイメージ浸透の先頭に立つドゥカティ「999R Fila」



アメリカンタイプで人気のモトグッツィ「California EVツーリング」



伝統的なモデルとして人気のハーレーダビットソン「XL1200R」



ホットなモデルのトライアンフ「スラクストン900」

# バイクの世界 その魅力と夢

(11月1日開催)



## ◆パネリスト

- 岩城 滉一氏 (俳優)
- 掛布 雅之氏 (プロ野球解説者)
- 宮城 光氏 (レーシングライダー)
- 竹本 恵氏 (元東京大学野球部投手)

## ◆司会

高木 千亜紀氏 (静岡朝日テレビアナウンサー)

新聞配達のアアルバイトをしている時に初めてバイクに乗り出したという意外な出会いの岩城氏に続き、現役引退後に就任した鈴鹿8耐のチーム監督がバイクとの出会いという掛布氏のエピソードなど、楽しい雰囲気の中で始まったトークショーは、まさにバイク好きの大集会。

「ヒーローはバイクに乗ってやってくる」と宮城氏が言えば、竹本さんは「ヘルメットを脱いだ後の髪型が困る」と、女性ならではの悩みを打ち明けるなどユニークな発言が相次いだ。



岩城 滉一氏



掛布 雅之氏



宮城 光氏

高速道路での二人乗り規制や道路料金体系などの問題に対する要望がでるなど、日本のバイク社会の利用環境整備に関する意見も飛び出し、来場者からも賛意を表す大きな拍手がわいた。なお会場は立ち見もでる盛況で、入場者数は500人を超えた。



## 来場者に聞く ポルシェに乗りたい!

浜松から彼と新幹線で会場を訪れた福井美樹さん「展示ブースが前に来たときより明るくなって、見やすくなりましたね」というのが今回の印象。いまのくるまはオーディィ。「何か安心感がある」。だからお目当てもオーディィの新車。「外国車に共通していえることですが、重量感があってデザインもいい。魅力を感じます」と外国車を評価。オーディィ以外ではと聞くと「ポルシェに乗ってみたいです」。



## きょうは説明役 大平英輝さんと都築伸予さん

「どこがどう変わったか、よくわからないけど来るたびに见やすくなっています」と、ちょっと驚いた様子。ここ10年、横浜から商用車ショーを含め毎回見に来ているとか。今回はガールフレンドと一緒に。「彼女は初めてなので、私が説明役」と嬉しそう。毎回、国産車を中心に見ているという大平さん、着目点は「新しい車、新しい技術」。「じっくり見ていると時間が足りない」といいながら仲良く次のブースへ。



## 今日のイベント(予定)

### ★ シンポジウム

- 14:00~16:00 環のくらし ~脱温暖化社会に向けた自動車の新技術と利用~ (国際会議場2F・国際会議室)
- 15:00~17:00 ITSクルマ新時代(国際会議場2F・201号室)

### ★ Bay FM

11:15~11:45 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

### ★ フィエスタ・マリスコス

- 13:00~13:30
  - 15:00~15:30
  - 17:30~18:00
- フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

### ★ クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 環境体験ランド(幕張海浜公園)

## TOPICS

### 善意が集まる献血・骨髄バンクコーナー

北ホール南側の中央救護所に隣接して開設されている「献血・骨髄バンクコーナー」。土曜・日曜の週末には大勢の人が訪れる。千葉県も慢性的に血液不足。3日までに1,913人が献血。前回よりも10%程度増えたのではないかとのこと。「非常にありがたい」と千葉県赤十字血液センター。一方の骨髄バンクコーナーは今回が初めて。ここでは骨髄バンクへのドナー登録を受け付けているが、献血者がドナー登録する割合は極めて高く、予想を遙かに上回る人がドナー登録をしており、その数はなんと190人!担当の千葉骨髄バンク推進連絡会も「こんなに反響が高いとは」と驚いた様子。呼び込みなどは一切しておらず、来場者の自主的な行為。善意が積み重なった貴重な数値だ。



11月3日の入場者数 **149,500人**

入場者数合計 **1,243,400人**

一人ひとり異なるメッセージが、従来にない販促効果を導きます。

高度なバリアブル手法を可能にするオンデマンド印刷。詳しくはコチラへ。

DocuPlaza (ドキュプラザ) <http://www.docu-plaza.com/>

## Color DocuTech 60

機材協力: 富士ゼロックス株式会社  
用紙協力: 富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社

このニュースは「Color DocuTech 60」で、再生コート紙「eCOAT105」に出力しています。

eCOAT105  
THE DOCUMENT COMPANY  
FUJI XEROX